

■ 指定管理者制度導入施設 最終評価シート ■

1 基本情報

公の施設名	相模原市立星が丘デイサービスセンター
指定管理者名	社会福祉法人上溝緑寿会
指定期間	令和4年4月1日～令和7年3月31日
施設設置条例	相模原市立高齢者デイサービスセンター条例
施設の設置目的	在宅の介護を必要とする高齢者に対し、入浴、給食その他のサービスを提供することによって、心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族の身体的及び精神的な負担を軽減し、もって高齢者の福祉の増進に關与するため。
施設概要	高齢者が自宅から通い、入浴、食事などの日常生活の世話や機能訓練を受けられる施設 所在地：相模原市中央区星が丘4-9-14 星が丘住宅1階 延床面積：431.68㎡（機械室除く） 主な施設：作業及び日常動作訓練室、浴室、食堂、相談室、会議室、ボランティア活動室 構造：鉄筋コンクリート造 開所時間：午前8時30分から午後5時まで 休所日：日曜日及び年末年始（12月30日から1月3日まで） 定員数：25名
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目（単位）	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用者数合計（人）	5,106	5,787	4,872
うち要支援1（人）	0	10	54
うち要支援2（人）	372	363	218
うち要介護1（人）	1,510	1,579	1,155
うち要介護2（人）	1,508	1,859	1,245
うち要介護3（人）	993	1,484	1,773
うち要介護4（人）	553	256	223
うち要介護5（人）	170	236	204
介護保険事業収入（円）	50,881,260	56,077,354	50,470,632

3 成果指標の達成度

評価 (5評価)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価点 (20点満点)	評価点
	D	C	D		1.7

指標 1	
指標名 (単位)	利用率 (%)
指標式と指標の説明	年間利用者数 ÷ (1年間の営業日数 × 利用者定員数) ※利用者定員数に対する年間の利用割合

項目 (単位)	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値 (人)	95.0	95.0	95.0
実績値 (人)	66.1	76.1	64.5
達成度 (%)	73.1%	84.1%	71.3%

※制度上、定員制限があるため、実績値100%が最大値になる。実績値100%でも目標値95で割ると達成度は105%になり、評価基準上「A」評価となり、令和元年度以降は実績値100%の場合に「S」評価とするため、1.05を乗じ、達成度が110%になるように調整している。

4 事業の実施状況

評価 (5評価)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価点 (20点満点)	評価点
	A	A	A		15

市が指定する事業		
主な事業名	内容等	効果等
(なし)	—	—

企画提案事業		
主な事業名	内容等	効果等
機能訓練外出	お花見や初詣など季節に応じた外出	各年度数種類を数日開催し、利用者計615名が参加(令和4年度198名、令和5年度265名、令和6年度152名)
機能訓練行事	季節感を味わいながら指先運動、歩行の運動などを行う	令和5年度から数日開催し、利用者計95名が参加(令和5年度60名、令和6年度35名)
出張握り寿司	寿司職人による出張寿司を開催	令和4年度に2日開催し、利用者計34名が参加
軽食創作活動	たこ焼きやお好み焼きなど比較的簡単な料理を作る	各年度数種類を数日開催し、利用者計783名が参加(令和4年度241名、令和5年度344名、令和6年度198名)
演奏会	ギターやハーモニカの演奏に合わせ合唱	令和5年度から数種類を数日開催し、利用者計724名が参加(令和5年度615名、令和6年度96名、ボランティア13名)
納涼祭	盆踊り、射的などの遊戯を楽しむ	各年度数種類を数日開催し、利用者計309名が参加(令和4年度99名、令和5年度117名、令和6年度93名・ボランティア13名)
敬老祝賀会	施設において敬老祝辞、記念品の贈呈、集合写真撮影を行う	各年度数種類を数日開催し、利用者計308名が参加(令和4年度102名、令和5年度105名・ボランティア24名、令和6年度101名・ボランティア11名)
運動会	パン取り競争、大玉転がし、応援合戦、鈴割りなどの競技	各年度数種類を数日開催し、利用者計310名が参加(令和4年度97名、令和5年度118名、令和6年度95名)

年忘れ会	職員によるトーンチャイム演奏会やクリスマスゲームに参加	各年度数種類を数日開催し、利用者計304名が参加(令和4年度98名、令和5年度109名、令和6年度97名・ボランティア:14名)
季節湯	地域の方から等による季節の花や果物を湯に浮かべて提供	令和5年度から数日開催し、利用者計284名が参加(令和5年度87名、令和6年度197名)
コーラス鑑賞会	コーラスボランティアによる歌唱を鑑賞	令和6年度に1日開催し、利用者計11名が参加・ボランティア8名
お楽しみ会(お別れ会)	施設職員による演芸等を鑑賞	令和6年度に1日開催し、利用者計26名が参加
卒業証書授与式	施設職員手作りの卒業証書を授与	令和6年度に1日開催し、利用者計58名が参加
お囃子、お神輿見学	地域のお囃子やお神輿を見学	令和5年度から各年度1日開催し、利用者計47名が参加(令和5年度19名・地域住民9名、令和6年度28名・地域住民10名)

自主事業

主な事業名	内容等	効果等
星が丘フェスティバルへの参加	地域包括支援センターの出店ブースに協力	各年度1日開催し、毎年度職員1名が参加してパンフレット配布等のPR活動を実施
星が丘地域包括支援センターへの協力	地域包括支援センターの活動や事業周知のための「ボード」の掲示及び平日の朝8:30～のラジオ体操の場を提供	実施日数726日で計4,541名が参加(令和4年度実施日数243日、延べ利用者1,542名、令和5年度実施日数244日、延べ利用者数1,537名、令和6年度実施日数239日、延べ利用者1,462名)

5 利用者の満足度

評価 (5評価)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価点 (20点満点)	評価点
	A	A	A		15

利用者満足度調査	
調査手法	法人独自の無記名アンケートを期間中実績のある利用者31人に配布し、回収は25人(回収率80.6%)。実績値(満足度)は次の計算式により求めた値。「事業所に対する評価の全設問(39問)の合計点÷(最大点数(3点)×全設問の有効回答数)×100」 ※配点:満足3点/まあ満足2点/やや不満1点/不満0点/該当なし・無回答は採点の対象外。
目標値の基準	平成29年度から令和3年度に実施した5年間の各市立デイサービスセンターにおける利用者満足度調査の実績値の平均

項目 (単位)	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値 (%)	88.3	88.3	88.3
実績値 (%)	89.5	89.7	92.3
達成度 (%)	101.4%	101.6%	104.5%

利用者意見の把握に資するその他の取組	
主な取組事項	取組内容
アンケートBOX	玄関にアンケートBOXを設置し、利用者、ご家族、訪問者からの意見を随時受け付けている。

利用者意見に対する対応	
主な意見	対応内容
①職員との関わりについて ②施設での日中の過ごし方(日中のプログラム)を自分で決めることができない ③ゆったりと落ち着いて食べられる(食事環境)…やや不満など	①職員の言葉遣い、質問への対応等、少数の否定的な意見があったことから、認知症研修、接遇研修など接遇に関する勉強会を3回程実施したためか、翌年度はいずれも肯定的な評価となった。 ②認知症及び認知症ケアについての研修を継続して実施。また、担当職員を決め、利用者自身が選択できる環境を整備。他にもインターネットやSNS等情報収集元の幅を広げる。 ③サービスマナー、接遇研修を継続して実施。また、食事介助についての研修も実施。

6 施設の経営状況

評価 (5評価)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価点 (20点満点)	評価点
	C	C	C		5

施設の収支概要

(千円)

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
収入 (a)	51,025	56,141	50,631
介護報酬等	39,579	45,436	39,709
利用者負担金等	9,640	10,121	9,475
その他	1,806	584	1,447
支出 (b)	69,424	63,183	59,167
人件費	45,471	43,113	37,339
事業費	12,614	11,312	12,226
事務費	11,244	8,757	9,523
その他	95	1	79
本体事業収支 [(a)-(b)] (c)	-18,399	-7,042	-8,536
自主事業収入 (d)	0	0	0
自主事業支出 (e)	0	0	0
自主事業収支 [(d)-(e)] (f)	0	0	0
事業活動収支 [(c)+(f)] (g)	-18,399	-7,042	-8,536
施設整備等収入 (h)	0	0	0
施設整備等支出 (i)	22	0	0
施設整備等収支 [(h)-(i)] (j)	-22	0	0
その他収入 (k)	0	5	7,766
その他支出 (l)	384	396	1,078
その他収支 [(k)-(l)] (m)	-384	-391	6,688
全体収支 [(g)+(j)+(m)] (n)	-18,805	-7,433	-1,848
備考	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の人件費の増は本部事務職員分の計上変更、派遣職員の人数増によるもの。なお、その他の支出(1)の減は本部事務職員の人件費を人件費に計上したため。 令和4年度の事業費の増は光熱水費の負担増によるもの。 令和4年度のその他収入はコロナ対策事業補助金268,504円、指定管理者制度導入施設支援金1,100,000円を含む。 令和5年度の事業活動費収支差額のマイナス幅の減は、利用率増加によるもの。 令和5年度のその他収入は指定管理者制度導入施設支援金355,000円、物価高騰支援金165,000円を含む。 令和6年度の介護報酬および利用者負担金減は事業所閉鎖に伴う退所者が増加したことによるもの。 令和6年度のその他収入は指定管理者制度導入施設支援金1,110,000円を含む。 		

7 管理業務の履行状況

検査項目	確認結果		
	令和4年度	令和5年度	令和6年度
管理業務	適正に実施	適正に実施	適正に実施
危機管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施
人員配置・地元活用	適正に実施	適正に実施	適正に実施
現金管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施
会計・経理	適正に実施	適正に実施	適正に実施
情報セキュリティ	適正に実施	適正に実施	適正に実施
情報公開・個人情報保護	適正に実施	適正に実施	適正に実施
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	適正に実施	適正に実施
加点の有無	無	無	無
主な加点内容			

8 指定管理者の自己評価

令和4年度から5年度にかけては延べ利用者数は増加となり、終了者を上回る新規利用者の獲得ができました。中重度比では年間実利用者で34.05%でしたが、年度後半より中重度比が上昇しており、中重度以上の方の利用ニーズが一定数を満たしている状況と考えられます。

経営状況について、収入面では利用者数の増加により収入増となっています。支出面では派遣職員を終了し直接雇用職員の採用などを行いました。また、年度途中からであることや専門的な職種については引き続き、派遣職員の採用を継続しているため若干の支出減少となっています。

引き続き赤字体質での経営状況となっていることから、適正な人員配置、利用者数に見合った適正な人員配置を取り組みました。新型コロナウイルスは5類感染症へ移行して感染対策は徐々に緩和していく中での活動でしたが、機能訓練外出などの外出系の活動を積極的に行いました。

令和6年度当初は移転を前提としていたために利用者数は前年比とほぼ横ばいでしたが、春から夏にかけて施設入所等で利用終了者が増加したため利用者数は減少傾向となり、事業所の廃止が決定した12月以降は更に利用終了者も増加したことから、年間の利用実績は大きく下がりました。

経営状況について、収入面では利用者数の減少により収入減となっています。支出面では前年度で派遣職員を終了したことで前年と比較しても抑えることが出来ました。

機能訓練外出などの外出系や軽食づくりの活動を積極的に行っており利用者からも好評でした。

創作活動でも多様な作業工程のものを小グループで取り組み、役割分担することにより個々の利用者が主体的に行えるようになり、得意とすることを整理しながらその方にあった活動が提供できていました。

9 所管課意見

・地域からのボランティアの受入れや、地域の行事に積極的に参加したことに加え、地域ケア会議や法人の理事会・評議員会の際に、当施設の運営や地域との連携について意見を聞く等、市立施設として地域交流や地域との連携を積極的に図り、利用者や家族だけでなく、地域からの意見も積極的に取り入れようとした姿勢を評価する。

・特に令和4年度は新型コロナウイルス感染症による影響が残る中、新規利用者獲得のため、ケアマネージャーを通じたPRを継続して行ったほか、民間施設とは異なる機械浴槽を含む風呂設備が充実している点に着目し、風呂利用の希望も断らず受入れる姿勢をとった。結果として令和5年度は令和4年度と比較し延べ利用者数が600人以上増加しており、また、指定期間を通し毎年、中重度の方の延べ利用者数が増加しているなど、継続して高齢者の福祉の推進を図った点を評価する。

10 選考委員会意見

・収支については、指定期間3年間とも赤字決算であった。利用者の減少による介護報酬・利用者負担金等の減、人件費、事業費、事務費の削減が厳しい中ではあるものの、適正な経営状況とは言えない。

・成果指標の達成度について、コロナ禍の影響を受けたことは否定できないが、施設の廃止が決まっている中、目標値には達していないものの、中度（要介護2・3）の方の受入れ割合が一番多い点は評価できる。

・利用者の機能、体力面での低下を少しでも防ぐために、機能訓練、軽食創作活動、運動会など、創意工夫し様々な事業展開に取り組んできたことを評価する。

・利用者の満足度達成率が、3年間とも100%を超えており、利用者からの主な意見に対しても適正に対応した点を評価する。

・指定期間を通じ、利用者のライフストーリーの作成などにおいて丁寧な聞き取りを行い、記録システム等を活用して職員間で情報共有を図ったことで、利用者一人ひとりの趣味や経験、能力を生かした取組が実施された。当該取組により、人との関わりが生まれ、また、利用者の主体的な活動につながり、日々の活力となった点を評価する。利用者のライフストーリーの作成は、地域共生社会を目指す上で重要な取組だと考えられるため、施設廃止後も、法人が受け皿となって個別支援に活かしてほしい。

・より良い施設運営や地域連携のため、利用者や家族だけでなく、地域活動団体等からも意見を聞き取ったこと、また、地域包括支援センター事業への協力として、周知ボードの掲示やラジオ体操会場の提供を行ったこと等により、地域との積極的な連携、地域住民との交流機会創出につながったほか、施設が地域住民にとって身近な存在となることで、地域のニーズと支援活動を結びつけるコーディネートの一助となり、地域共生社会の実現に寄与したものと考えられる。

・令和5年度から施設内は「歩く」を基本とし、福祉用具等の知識習得のために移動や自立支援関係の勉強会を積極的に実施した点について評価する。また、令和5年度は定例会議の司会分担等により各職員からの発信が増加した等、明確な役割分担をすることで個々の職員の発言機会を積極的に確保した点について評価する。職員の知識習得や意識向上につながり、個々の利用者に寄り添ったより良いサービス提供ができたものと考えられる。

総合評価（自動判定）

